

ロータリー 青少年交換



ロータリー青少年交換における 多様性、公平さ、インクルージョン

LGBTQ+の学生へのサポート

ロータリー 青少年交換



ロータリーは多様性を重んじ、年齢、民族、人種、肌の色、障害、学習スタイル、宗教、信条、社会経済的立場、文化、婚姻状況、使用言語、性別、性的指向、性自認に関係なく、あらゆる背景を持つ人びとの貢献を大切にします。

奉仕、親睦、多様性、高潔性、リーダーシップというロータリーの中核的価値観を常に重んじながら、私たちは多様で、公平で、インクルーシブ (包摂的) な文化を育み、マイノリティ (少数派) である若者がロータリー青少年交換に参加できる機会をもっと増やすことに努めています。

青少年交換の主な目的は、異文化交流だけでなく、平和と社会正義を推進するリーダーとして青少年が成長できるようにすることです。この目的を果たすには、学生からボランティアまで、交換活動に関わるすべての人が心を開き、互いを受け入れ、支え合う必要があります。

性自認やLGBTQ+ (レズビアン、ゲイ、バイセクシャル、トランスジェンダー、クィアまたはクエスチョニング) コミュニティに関する考え方、慣習、法律、用語は、国によって大きく異なります。このため、LGBTQ+の学生が抱く安心感やサポートも、受入国や学生の出身国によって異なる可能性があります。学生が自認する性にかかわらず、すべての学生のためのサポート体制を整えるために、このガイドの情報を参考にしてください。

LGBTQ+に関する言葉は絶えず進化しており、文化によって異なる可能性があることを念頭に置いてお読みください。



ロータリーの多様性・公平さ・インクルージョンへの
コミットメントについてお読みください

このガイドで使用される 主な用語

(定義の参照元：米国、[The Human Rights Campaign](#))

シスジェンダー (シス)：出生時に割り当てられた性別と性自認が一致し、それに従って生きる人を指す言葉。

ジェンダー：人が自分自身をどう理解し、他者とどう接するかにかかわるもの。多くの人は自分を「女性」「男性」のいずれかであると認識している一方、両性の組み合わせ、またはそのどちらでもないと認識している人もいる。ジェンダーは、言動や外見などさまざまなかたちで表現されることがある。

性自認を尊重する言葉：その人の性自認を肯定し、サポートする言葉遣い。

プラス (+)：よく使用される略語の「LGBTQ」に、他の性的指向や性自認も含むために追加される言葉。

ジェンダー代名詞：ジェンダーが関わる三人称の代名詞（「he、she、they」や「彼、彼女」など）。出生時に割り当てられた性別ではなく、性自認に適したジェンダー代名詞の使用を希望する人もいる。

出生時に割り当てられた性別：生まれつき持っている身体的または生物学的特徴に基づいて、その人を男性、女性、またはインターセックスと分類すること。

性的指向：他者に対して感じる身体的、恋愛、感情的、または美的な魅力。性自認（ジェンダーアイデンティティ）とは関係がない。また、その人の性的活動ではなく、魅力を感じる対象によって定義される。

トランスジェンダー：出生時に割り当てられた性別と性自認が異なる人（つまり、シスではない人）を指す言葉。

本ガイドの巻末には、このほかの用語が説明されています。

青少年交換に参加する LGBTQ+の学生が 直面する課題

交換留学に行くことを決めたLGBTQ+の学生は、通常、同年代のほかの学生より大きな課題に直面します。新しい文化に飛び込んでいくことに加え、LGBTQ+であることによって、ほかの人からどのように見られ、扱われるかが大きく左右される可能性があります。

例えば、母国で性的指向や性自認を人びとに打ち明けた学生が、交換留学中にもう一度それを繰り返さなければならぬかもしれません。しかも今回は、自分にとってなじみのない国であり、その文化では性的マイノリティの受け入れや理解が進んでいないかもしれません。人びとがどう反応するか分からない状況で打ち明けることは、ストレスや不安の原因にもなります。

こうした事情があるため、信頼できる人間関係ができるまで打ち明けるのを待ったり、一切打ち明けないことを選んだりする場合もあるでしょう。学生は性自認や性的指向について公表したり、打ち明けたりする必要はありませんが、学生がそうすることを選択した場合には、本人が特定の人に開示することを明確に許可しない限り、その情報の極秘に保つことが肝心です。

性的指向や性自認を公表しないと決めた学生も、別のプレッシャーに直面する可能性があります。例えば、自分がホストファミリーや地元の人たちからどう見られているか、ほかの人が誰かに明かしてしまうのではないかとといった不安です。青少年交換に参加する学生は、自己発見の大切な年齢期にあり、交換留学中に初めて自分の性的指向や性自認に気づくことも珍しくありません。



交換留学生なら誰もが直面しうるストレスに加えて、LGBTQ+の学生は次のような不安を抱えていることがあります。

- ホストファミリーは私の性的指向または性自認を見抜くだろうか
- 私の性的指向や性自認をほかの人たちに明かされてしまうだろうか
- 自分を受け入れてくれるだろうか
- 安全に過ごせるだろうか
- 自分に適したジェンダー代名詞や性自認を尊重する言葉を使用してもらえるだろうか
- 自分の性的指向や性自認について質問されるだろうか
- 自分をちゃんと表現できるだろうか
- ホストファミリーの家で心置きなく暮らせるだろうか
- ホストファミリーは私に気兼ねしないだろうか
- 留学先の人びとが信仰する宗教は、私への見方に影響するだろうか
- 受け入れ先の学校で安全に過ごせるだろうか
- 受け入れ先の学校はサポートしてくれるだろうか
- 差別を受けるだろうか
- 性的指向や性自認のために犯罪のターゲットにならないだろうか
- バスや電車の中で危険な目に遭わないだろうか
- 公衆トイレで危険な目に遭わないだろうか
- 受入地区はサポートしてくれるだろうか
- 受入地区では具体的なLGBTQ+向けのサポートを提供しているだろうか

すべての学生にとって安全で 思いやりある環境をつくる



できるだけジェンダーを特定しない 表現を使う

相手の性自認や希望するジェンダー代名詞が不明な場合、ジェンダーを限定するような言葉や表現は使用しないようにしましょう。例えば、「彼」「彼女」ではなく名前と呼ぶ、「～君」「～ちゃん」ではなく「～さん」で呼ぶ、「女子」「男子」といった言葉を避けることなどがあります。英語圏では、「he」や「she」の代わりに中性代名詞「they」を使ったり、「ladies and gentlemen」ではなく「good evening, everyone」のように言うことが推奨される場合もあります。いずれにしても、大切なのは、誰もが出生時に割り当てられた性別を自認しているわけではないことを意識した上で、言葉遣いに配慮することです。

学生が自分のアイデンティティを表明できる環境を作ってあげることが大切です。例えば、申込書の性別欄に「男性」と「女性」のほかに「その他」の選択肢を入れることができます。また、面接やオリエンテーションで自己紹介してもらう時には、誰でも温かく受け入れる姿勢を示し、学生が自由に自己表現したり、自分のことを打ち明けたりしやすい雰囲気を作ってあげましょう。そうすることで、大人たちが学生に配慮していることを示し、それぞれの学生に必要なサポートをよりよく判断できます。以下は具体的な方法の例です。

- **学生が異性愛者である、または出生時に割り当てられた性別と性自認が一致していると思いきまない。** 服装や自己表現の方法から学生の性自認を決めつけないことも大切です。一般的に、セクシュアリティや性自認に関する推測は避けるべきです。
- **すべての学生とボランティアがLGBTQ+について話し合う。** 相手が誰であれ、常にインクルーシブな環境づくりを心がけることが大事です。それがLGBTQ+の学生のサポートになるだけでなく、ほかの学生やロータリー会員／関係者の理解向上にもつながります。また、ロータリープログラムでLGBTQ+の学生がサポートされていることを示すこともできます。
- **どの程度まで打ち明けるかは、本人の意思を尊重する。** LGBTQ+の学生が性的指向や性自認を打ち明けると決めた場合、本人が望むタイミングでできるようにしてあげましょう。打ち明ける場合でも、自分の家族や母国の人たちなど、ほかの人には知られたくないという場合もあります。学生が打ち明けた時に適切な対応ができるようにし、気まずい思いをさせるような質問を避けるために、このガイドを読み、分からないことは調べておきましょう。性的活動など、クラブ入会者には尋ねないような質問はしないでください。



- **学生の性的指向や性自認を明かしてしまうおそれがあることに注意する。**学生の希望を尊重し、ボランティアやホストファミリー、ほかの学生に不用意に明かしてしまわないようにすることが重要です。学生の両親と連絡を取るときは、特に注意してください。こちらからホストファミリーと連絡を取る際にどのような言葉を使ってほしいかを学生に尋ねましょう。例えば、学生が自分はトランスジェンダーであり、特定の名前や代名詞で呼んでほしい場合でも、両親と話すときは別の名前や代名詞を使用してほしいと考えている可能性があります。
- **「彼」「彼女」などの表現に配慮し、性自認を肯定する言葉遣いをする。**自分を指したり、人から呼ばれたりする時にどの言葉を使ってほしいかを憶測で判断しないことが重要です。「彼」「彼女」「he」「she」などの呼ばれ方をされたくない人もいます。学生が望む代名詞や呼び方を確認し、性自認を肯定するような言葉を使ってあげることで、尊重する姿勢を示すことができます。本人が望まない代名詞や呼び方で呼ぶことは、自己を否定されているという気持ちや疎外感を与えるなど、不安や精神的な苦痛を与えかねません。
- **学生が自分から性自認について話せるようにする。**私たちの目標は、学生が安全かつ安心して過ごせるようにすることです。受け入れる側にとってそれが困難であるかどうかは問題ではありません。例えば、米国では対面式の会合で使う名札に、希望する呼び方やジェンダー代名詞を学生自らが記入できるようにしています。また、会員やボランティアが自己紹介で自分が希望するジェンダー代名詞を伝え、手本を示すことで、外見からジェンダーを決めつけられない姿勢を示すことができます。ただし、気をつけていても呼び方を間違えてしまうことは誰にでもあります。その場合には、率直に謝り、以後気を付けるようにすれば問題ありません。

文化や考え方を押しつけない

「交換留学生は文化を学びに来たのだから、日本の文化や考え方に従うべきだ」と考えないことが重要です。青少年交換は、交換留学生が受け入れ側の文化を学ぶだけでなく、受け入れ側のロータリー会員、ボランティア、ホストファミリーにとっても、学生の出身国の文化を学ぶ機会となります。

また、日本でも人によってさまざまな考え方や文化があることを理解し、皆が自分と同じであると推測することは避けましょう。



インクルーシブな自己紹介の例

- はじめまして。私は(名前)です。自分に使っている代名詞は「she/彼女」です。あなたにはどの代名詞を使ったらよいでしょうか。
- 皆さんは自分でどの代名詞を使っていますか。
- 自己紹介をしましょう。名前、自分に使っている代名詞、好きな食べ物を教えてください。

- **LGBTQ+に関する自分の知識が十分ではないことを率直に認める。**LGBTQ+について分からないことが多くあるかもしれませんが、心配は無用です。分からないことがあれば、学生にそのことを伝えて尋ねたり、知識のある人に学生を紹介したりしてください。アイデンティティについて尋ねる前に、性自認(ジェンダーアイデンティティ)やLGBTQ+のトピックについて勉強しておきましょう。調べてもまだ疑問が残っている場合、自認するアイデンティティを学生自身がどのような意味でとらえているのかを尋ね、その用語やアイデンティティについて話してもらうこともできます。例えば、男性と女性のどちらでもないノンバイナリーの意味は、それを自認する学生によって異なる可能性があります。
- **地元のLGBTQ+の人やグループ、プログラムを学生に紹介する。**アイデンティティの少なくとも一部を共有する人と知り合うことで、よりよい理解者ができ、LGBTQ+の若者の安心感が増します。LGBTQ+にかかわる地元の青少年グループや支援団体など、サポートにつながるような情報を全学生に伝え、希望すれば誰でも参加できるようにしましょう。
- **何より大切なのは、思いやり。**LGBTQ+について自分に知識や経験がない場合でも、思いやりとオープンな心をもって学生に接してあげることで、成長の機会が生まれ、寛容で理解のある世界を築くことにつながります。



LGBTQ+の事情について下調べをする

ガイドの冒頭で述べたように、性自認やLGBTQ+に関する理解や慣習は、国によって大きく異なります。このため、受け入れ側と学生の両方がそれぞれの国について以下のことを調べ、LGBTQ+の環境を理解しておくことが重要です。

- その国では、ジェンダーについてどのような考え方が主流か
- 地元地域では、ジェンダーごと（または男女別）の役割についてどのように認識されているか
- 男性、女性、トランスジェンダーの人びとのステレオタイプ（典型型）はどのようなものか
- その国の人びとは、ノンバイナリーを自認する人に対してどのような認識を持っているか
- 学生の母国や文化について、どのような固定観念があるか
- 性別によって政治や社会における力の差があるか
- 性的指向や性自認に関する法律や規制はあるか
- その国のジェンダーごと（または男女別）の役割についての一般的な認識と自分の価値観には、どのような違いがあるか

本ガイドの巻末にある追加リソースもご参照ください。

派遣地区が留意すべきポイント

交換留学とそこで待ち受けるあらゆる機会と課題について、学生の心構えを整えさせることは、派遣地区の責務です。青少年交換に応募した学生や交換留学が決まった学生（およびその家族）に対応する際には、次の点に留意してください。

- **十分な情報に基づいて学生が参加を決断できるようにする。** 留学先でのLGBTQ+への理解や文化的慣習を学生が理解できるよう、十分な情報を提供してください。ただし、LGBTQ+であることによって危険にさらされたり、国の法律に抵触したりする場合を除き、留学国の選択肢を狭めるべきではありません。むしろ学生には、どの国が自分にとって最適かを判断できるように、慎重に下調べをするよう促しましょう。
- **LGBTQ+の青少年交換学友の力を借りる。** 学生にとって、同じプログラムへの参加経験がある学友は心強いサポートとなります。特にLGBTQ+の学友がいる場合、留学するかどうかを決断しようとしている学生に参考となるアドバイスができるかもしれません。「[LGBT+親睦活動グループ](#)」を学生に紹介することもできます。
- **正直に話し、透明性を保つ。** 直面するかもしれない課題について、学生に率直に伝えることが重要です。実情を理解する上で参考となる詳しい情報を省いたり、言及を避けたりしないでください。交換を成功させるには、学生のニーズについて双方の地区が率直にコミュニケーションを取ることも大切であり、これはすべての関係者にかかわりません。出発前に必要なサポートを提供し、交換中にロータリー会員／ホストファミリー／学生が直面しうる問題を回避するのに役立ちます。多様なアイデンティティに対応するための包括的な方針を定めることで、学生の特定の個人情報を開示することなくコミュニケーションを取ることが可能になります。



- **医療やそのほかの基本的ニーズについて話し合う。** 交換留学中に自分に発生しうる医療ニーズがあるかどうかを学生に尋ね、受入地区と協力してそのニーズを満たせる場所を探しておきましょう。可能であれば、LGBTQ+の若者への対応が可能な施設を学生に紹介します。特に、医療やメンタルヘルスケアのサポート体制が母国と留学先でどのように異なるかを、学生に考えてもらいます。
- **母国でも留学先でも十分なサポートが得られることを確認する。** 留学中に課題に直面したらいつでもサポートが受けられることを学生に伝えましょう。ニーズについて学生と話し、留学中の安全と安心に影響を与えるあらゆる要素について、事前に受入地区に尋ねてください。
- **帰国後オリエンテーションでもインクルージョンを意識する。** 留学を終えてからの帰国後のオリエンテーションは、出発前オリエンテーションと同じくらいインクルージョンに配慮したものであるべきです。帰国後の生活に戻ることに苦労する学生は少なくありませんが、特にLGBTQ+の学生が直面しうる課題に細心の注意を払いましょう。留学先で自分のアイデンティティに適応してきた学生は、帰国後にもう一度適応し直す必要があるかもしれません。

受入地区との確認事項

- 留学先で通う学校は、LGBTQ+の学生を受容できるか
- 留学先の地域社会は、LGBTQ+に対して受容性があるか
- 受入地区には、LGBTQ+の会員、リーダー、ホストファミリーがいるか
- 受入地区では、LGBTQ+の若者を受け入れ、支援する方法をボランティアに教える研修が提供されているか、またはそのような研修への参加が必須とされているか
- ホストファミリーは、LGBTQ+の学生を受け入れ、支援することに前向きか
- LGBTQ+の学生が直面しうる課題を理解している、あるいは学ぶ意欲のあるカウンセラーが任命されるか



LGBTQ+の学生を受け入れる前に、以下のものが地区にあるかどうかを確認してください：

- 学生が必要とするかもしれない包括的な医療ケア
- LGBTQ+の会員、リーダー、ホストファミリー
- LGBTQ+の人びとを保護する法律
- LGBTQ+コミュニティやグループ
- インクルーシブな学校規則／学校方針
- ジェンダーフリーのトイレ施設
- LGBTQ+の学生のサポートに関するボランティアへの研修
- ジェンダーごと（または男女別）の役割における社会的柔軟性
- インクルーシブな言葉遣いに関する方針や指針

受入地区が留意すべきポイント

学生とその家族は、交換留学中のサポートと世話を受入地区に委ねることになります。受入地区は次のことができます：

- **正直かつ率直に接する。**派遣地区や学生と、受入環境について（特に安全に関するリスクがある場合）包み隠さず話し合ってください。例えば、一部の国では、たとえ法律で保護されていても、特定のグループに対する社会的態度が異なる場合があります。受入地区での文化的な環境について、（自分の個人的な見解とは異なる場合であっても）正直に伝えてください。その情報を吟味した上で、留学するかどうかを学生が最終的に決断し、留学生活の準備を整えられるようにします。
- **留学前に受入学生と話をする。**受入学生の不安を和らげるため、到着前に直接連絡を取り、学生の疑問に答えましょう。連絡を取る相手がホストファミリーでもカウンセラーでも、学生をサポートできるような早い段階で関係を築くことが大切です。学生が書類上の名前とは異なる名前を使用することを希望する場合、情報を訂正し、学生とやり取りするすべての人に正しい名前が伝わるようにしてください。
- **青少年交換に関与するボランティアを厳選し、支援を提供する。**交換の成功のカギを握るのは、学生へのサポートです。このため、学生を支えるホストファミリー、カウンセラー、学校関係者などのボランティアにも、十分な支援を提供する必要があります。地元の支援者／支援団体（可能であれば、LGBTQ+の学生のホストファミリーとなった経験のある家族）と連絡を取り、支援のネットワークを築きましょう。ボランティアには、学生の到着前に、性自認、性的指向、LGBTQ+へのサービス、地元の相談窓口などについて調べることを促します。

- **地元団体と協力する。**可能であれば、地元のLGBTQ+関連団体をオリエンテーションに招いて話をしてもらい、留学中に学生とボランティアが利用できるサポートやリソースを紹介してもらいましょう。また、LGBTQ+向けホットラインが存在する場合には、学生に渡す緊急連絡先のリストに含めます。
- **学生のための支援ネットワークを築く。**LGBTQ+の学友をオリエンテーションに招いたり、受入学生のメンターになるようお願いしたりするのも一案です。LGBTQ+の学友は、自分の経験を基に学生にアドバイスをし、地元の文化や慣習について教えることができます。



以下の場合には、LGBTQ+の学生を受け入れるべきではありません：

- LGBTQ+の人びとを罰する法律がある
- 国または地元地域が政情不安であり、その要素の一つとしてジェンダーや性的指向が関係している
- LGBTQ+に対する憎悪や暴力を提唱する社会集団がある
- 厳格なジェンダーごと（または男女別）の役割が定められている



アレックスさんの場合

アレックスさんは2016年、第6900地区のロータリー青少年交換プログラムに応募し、交換学生として選ばれました。その時点では、自分がトランスジェンダーであることを家族にも知らせていませんでした。交換に向けた準備期間の後半、アレックスさんは、トランスジェンダーであること、そして交換期間を男性として生きるスタートにするという意志を家族と地区役員に伝えました。

留学生なら誰でも経験するようにアレックスさんも課題に直面しましたが、トランスジェンダーの交換学生であることは、人一倍の強さや忍耐、そして決意が必要とされました。それでもアレックスさんは、コミュニケーション、協力、計画を十分に行い、熱意さえあればトランスジェンダーの学生も素晴らしい留学体験ができることを身をもって証明しました。

ー マイク・パークス (第6900地区青少年交換委員長)

ホストファミリーが留意すべきポイント

ホストファミリーは、学生が家庭の内外で安心して過ごし、サポートされていると感じられるようにする責任があります。これはLGBTQ+の若者にとって特に重要です。ホストファミリーは以下のようなことができます。

- **学生が自分のアイデンティティに関して非難や差別、そのほかの問題に直面した場合には、いつでもホストファミリーに伝えてサポートが得られることを学生に伝える**：学校や地元地域で問題が生じそうになるまで待たないことが肝心です。学生には折に触れて、傷ついたり、不安を感じたり、困っていることがあればホストファミリーに話すように伝え、ホストファミリーとしてできるだけ助け、必要であれば支援できるほかの人を紹介できることを伝えましょう。
- **たとえ悪気がなかった場合でも、誰かが間違えたときにはその場で正す**：例えば、間違った性別を使って学生を呼んだ人がいたら、学生が使っている名前や性自認を肯定する言葉に置き換えて穏便に言い直すことで、学生に（または学生について）どのように話すべきかの手本を示すこととなります。
- **学生のジェンダーにかかわる推測は避ける**：例えば、「女だから」という理由で家事を任せたり、使用べきトイレを決めつけたり、好む服装や用品について推測することは避けましょう。

- **学生がトランスジェンダーである場合、またはノンバイナリーを自認している場合は、公衆トイレの利用に不安があるかどうかを尋ねる**：こうした学生が最も安心して利用できるのは、通常、個室の男女共用（オールジェンダー）のトイレです。男女別のトイレは、外見に基づいて嫌がらせや暴行を受ける可能性のある学生にとって、安全上のリスクになる恐れがあります。学生が不安を感じている場合は、信頼できる人に一緒に行ってもらうことを勧めましょう。味方となる人が一緒にいることで、嫌がらせを受ける可能性が低くなります。
- **柔軟に対応する**：場合によっては、自分の性や性的指向を理解しようとしている最中の学生もいるかもしれません。学生はさまざまなかたちで自己表現しようとするかもしれませんが、それでよいのです。ホストファミリーの家は安心して自己表現できる場所であることを学生に伝えてください。



青少年交換でLGBTQ+の学生をサポートすることは、参加するすべての若者が安心して異文化を学び、自立心を養うことができるよう支援するうえで不可欠です。LGBTQ+の学生を最善のかたちでサポートしようと努めることは、誰にとっても学びのプロセスとなります。成功例や紹介したいストーリーがある場合は、youthexchange@rotary.orgまでお寄せください。

RIのリソース

青少年交換を誰にとってもインクルーシブな体験とするためのそのほかのアイデアを、2019年青少年交換役員大会前会議の「[多様性とインクルージョンに関するプレゼンテーション](#)」(英語)でご覧いただけます。

RIは、LGBTQ+の学生を受け入れるのに必要なサポート体制を整えている地区を紹介することもできます。これらの地区に連絡してアドバイスを得たいという場合は、[青少年交換プログラム担当部 \(youthexchange@rotary.org\)](mailto:youthexchange@rotary.org) にご連絡ください。

外部のリソース

そのほかにも役立つ可能性のあるリソースをご紹介します。これらは参考用であり、RIによって作成または承認されたものではないことにご注意ください。

東京大学
[LGBTQ学生が抱える困難](#) (日本語)

法務省 (人権擁護局)
[性的マイノリティに関する偏見や差別をなくす](#) (日本語)

日本財団ジャーナル
[「LGBTQなど性的マイノリティを取り巻く問題。私たちにできること」](#)
(日本語)

フロリダ国際大学図書館
[LGBTQに関する国際的方針](#) (英語)

Human Rights Campaign (米国LGBTQ支援団体)
[用語集](#) (英語)
[公平さとインクルージョンのためのツール](#) (英語)

[ヒューマン・ライツ・ウォッチ](#) (英語)

IES Abroad (米国の留学支援団体)
[国別の多様性リソース](#) (英語)

ILGA World (世界のLGBTQ+団体の国際協会)
[各国の性的指向に関する法律を示す世界地図](#) (英語)

NAFSA: Association of International Educators (米国の国際教育交流団体)
[LGBT留学生へのサポート](#) (英語)

OutRight Action International (LGBTQ+の人権保護団体)
[各国の概要](#)

国連
[LGBTの人々の効果的なインクルージョン](#) (英語)

Free & Equal: [定義](#) (英語)

Free & Equal: [ファクトシート](#) 人権問題に関する概要 (英語)

Free & Equal: [より良いアライになる方法](#) (英語)

知っておくべきそのほかの用語



下記の用語を知っておくことで、性的指向や性自認についてより安心して話し合うことができます。このリストにある用語がすべてではなく、自身の国や文化で使用されている用語も調べることをお勧めします。ボランティア、学生、ホストファミリーと、インクルーシブで思いやりと尊重のあるコミュニケーションを行う上で役立ちます。

(定義の参照元：米国のThe Human Rights Campaign)

- **カミングアウト (Coming out)**：自分の性的指向や性自認を受け入れ、その情報をほかの人に打ち明けること。さまざまなコミュニティや個人との関わり方に応じて、継続的なプロセスとなる場合がある。
- **デッドネーミング (Deadnaming)**：トランスジェンダーの人が社会的・法的に名前を変更した後に、その人の出生名を使用すること。
- **ジェンダーニュートラル (Gender neutral)**：場所（トイレ施設など）やアイデンティティ（ノンバイナリー）など、性別で分けられていないもの。ジェンダーニュートラルな言葉（代名詞のtheyなど）を使うことで、特定の性別やジェンダーに対する先入観が回避される。
- **ミスジェンダリング (Misgendering)**：意図的または意図せずに、ある人の性自認と一致しない方法でその人を呼ぶこと。
- **ノンバイナリー (Nonbinary)**：自分の性別を男性でも女性でもないとして自認する人
- **アウト (Out)**：社会的または職業的生活の中でLGBTQ+であることを公表している人びとを表すために使用される用語。
- **アウトイング (Outing)**：LGBTQ+の人の性的指向や性自認を、本人の同意なしに開示する行為。これは人権侵害であるだけでなく、それによって対象者が望ましくない質問、軽蔑的な発言、潜在的な差別、さらには身体的な危険にもさらされる可能性がある。
- **クィア (Queer)**：異性愛者やシスジェンダーではない一部の人が使用している用語。中傷として使われる場合もあるが、人によってはプライドの印として自ら使用することもある。この言葉は、本人が自らクィアを名乗っている場合にのみ使用する。
- **クエスチョニング (Questioning)**：自分の性的指向や性自認を理解する過程にある人を指す言葉。
- **トランジション (transition) またはアファーマーション (affirmation)**：人が性別またはジェンダーを変更するプロセス。社会的プロセス（名前、服装、代名詞の変更）や医学的プロセス（ホルモンの使用または外科手術）がある。トランスジェンダーでは医学的性転換を行う人と行わない人がいる。

ロータリーと共に変えていこう

人それぞれの違いを尊重し、多様な観点を受け入れ、学生のために公平な機会を与えることで、思いやりある環境を作り、青少年の学びと成長を大きく後押しすることができます。

世界の課題は複雑化しています。平和と理解を築く未来のリーダーを育てるには、ロータリー青少年プログラムのリーダーである皆さまが、多様性、公平さ、インクルージョンの取り組みを推進することが不可欠です。青少年交換においてこの取り組みを優先させることで、多様性がもたらす力と豊かさを、地域社会、ひいては世界に示すことができます。

ロータリーがよりインクルーシブとなり、参加する若者たちをよりよくサポートできるよう、ご協力をお願いいたします。